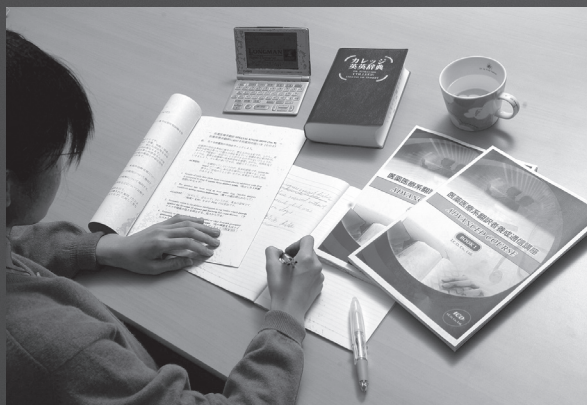


(株)アイ・シー・オー

磨き抜かれたテキストと丁寧な添削指導で 時代が求める医薬医療系翻訳者を育成



取材講座 Database

講座名 医薬医療系翻訳通信講座 「アドバンスコース」

期間●入学随時 1年間(添削12回)
費用●H/P (http://www.ico-inc.co.jp)を参照
内容●医薬医療・ヘルスケア分野の翻訳のプロを目指す人や、医薬医療分野の文庫にふれる機会が多い職場で働く人を対象にした講座。医薬品開発に関する深い理解と、優れた英語コミュニケーション能力を持ち、医薬・医療分野のグローバル化に対応できる翻訳者の育成を目指している。スタンダードコースから学習することが理想だが、TOEICテスト700点以上の語学力があれば、アドバンスコースからの学習も可能。

巻末データベース
●P.254 掲載

翻訳講座
体験ルポ

通信コース

実務翻訳

医薬分野の国際化に対応できる 人材を育成する上級コースを開講

医薬医療・ヘルスケア分野には、さまざまな法的な規制が設けられている。特に、医薬品開発の現場では、国際共同開発、国際共同治験など、グローバル化が進んでおり、ICH（日米欧医薬品規制調和国際会議）が定めるガイドライン（臨床試験の実施方法やルール、提出書類のフォーマット）に則り、各種申請書類を作成・翻訳する必要がある。（株）アイ・シー・オーでは、これまでも文系出身者が効率的に専門分野の基礎知識と翻訳力を養成できる「医薬医療系翻訳通信講座・スタンダードコース」を開講し、多くの翻訳者を輩出してきたが、2010年、時代のニーズに応じたワンランク上の講座「アドバンスコース」を開講する。

「医薬品開発英語」を習得するための カリキュラム&オリジナル・テキスト

アドバンスコースの大きな特徴は、医薬品開発のプロセスやICHのガイドラインへの理解を重視したカリキュラムにある。取り扱うドキュメントが、いかなる場面・目的で使用されるのかを正しく把握した上で翻訳スキルを発揮することが、即戦力に求められると考えるからだ。オリジナル・テキ

ストも、CMC (Chemical Manufacturing Control)、非臨床、臨床、市販後という医薬品開発のプロセスに沿って配分し、英語による解説、コンセプトの理解、重要ポイントの和訳という順にシステマチックに学習を進めることができる。さらに、実務に役立つ日本語解説、翻訳のためのポイント、用語解説など充実した内容で、理系以外の出身者でも学習しやすい教材となっている。

受講生のモチベーションを高める フォロー制度とプロデビュー支援

通信講座には、「疑問が出てきたらどうしよう」という不安があることは確か。（株）アイ・シー・オーでは、メールによる質問を受け付け、経験豊富な担当講師が迅速に対応することで、受講生の効率的な学習をサポートしている。また、学習にも実務にも役立つ副教材の今後の開発によって、受講生の目線に立ったフォローシステムの強化を意図している。なお、成績優秀者には、（株）アイ・シー・オーの在宅翻訳者あるいは在宅チェッカーの道が用意されている。講座修了時に、在宅翻訳者としての起用に至らなかった受講生でも、在宅チェッカーとして、ある程度の経験を積み、その後同社の翻訳部門・出版部門でプロの翻訳者として活躍する道も開かれている。

↓ 修了生に聞きました



浅井真澄さん

Profile / 大学卒業後、ソフトウェア開発会社に入社し、自動翻訳システムのデータベース作成に携わる。その後、アパレルの販売員、CADオペレーターなどに転職したが、2006年から（株）アイ・シー・オーの「医薬医療系翻訳者養成通信講座」を受講。修了後、同社の在宅チェッカーとして経験を積み、現在は医薬分野の翻訳者として活躍中。

組織に頼らずに生きていける 専門スキルの習得を目指す

10代の頃から音楽や詩を通して英語に親しみ、社会に出ても、いつかは翻訳者になりたいとは思っていましたが、対象が定まらず、気の向くままに転職をしていました。そうしているうちに勤めていた事務所が不況の波で閉鎖。再就職先がなかなか決まらず、これはもう専門的なスキルを身につけるしかない決意を固めました。

ちょうど、身体や心の健康に強く関心が向いていた時期で、介護ヘルパーの資格も取得していましたが、その時の経験から医薬分野の翻訳を目指そうという思いに至りました。また、早く仕事に結び付けたいと思っており、また、医薬品の開発にかかわる翻訳において、専門性・実践性が高い（株）アイ・シー・オーで学ぶことにしました。

英文科出身の素人でしたが 「医薬とは何か?」が徐々に見えてきました

（株）アイ・シー・オーの講座は、医薬品が世に出るまでの順序で構成されています。創薬の段階（CMC）から始まるのですが、これは文系出身の素人にとっては洗礼とも言えるものでした。「定量」や「同一性」などの用語や文章の意味することがほとんど分からず、当時は検索のスキルもありませんでしたので、課題文を訳すのが本当に大変でした。それまでは「医薬翻訳」というと、人間の体の構造や病気、それに薬の作用に関するものといったイメージしかありませんでしたので、この洗礼を受けたことで「医薬」とはどういうものなのかが初めて見えた気がします。

工夫が施された教材の数々は 修了後も大いに役立っています

（株）アイ・シー・オーの講座の各ステップには、自習編とその解答例があり、実例を通してそのステップのアウトラインをつかむことができます。また、テキストの用語集に

リストアップされている専門用語は現場に直結する重要なものばかりで、解説や課題文を総合しますと、終了時には大変実用的な参考書が手元に残ることになります。校正をしながら翻訳の修行を積む際も、受講時には断片的だった知識を整理するためにこれらの教材はとても役に立ちました。

少しでも医薬分野に貢献することが 私に与えられた使命だと思っています

この2年間のうちに、かけがえのない友と愛猫を続けて病気で亡くしました。力になれなかったことを思うたびに悔し涙が溢れてきます。しかし、この時期に愛する者の病と死に直面したのは、この道を全うしなさいということなのかもしれません。

医薬の世界は日々目覚ましい進歩を遂げており、新しい技術や医薬品が次々と開発されています。その恩恵が少しでも多くの命に行き渡るように、微力ながら一生貢献すること、それが私に課せられたmissionだと思っています。そのためには常に正確な翻訳を心がけ、信頼される翻訳者として自立したいと願っています。

School Information

（株）アイ・シー・オーは、25年間にわたって医薬品・医学およびライフサイ

エンス系分野の翻訳並びに薬事申請関連ドキュメンテーションに特化したサービスを提供する企業。「医薬医療系翻訳者養成通信講座」は、一定水準を満たす医薬医療系翻訳者をひとりでも多く誕生させ、ひいては医薬医療系翻訳業界の品質向上に寄与するために開講した講座。その他、医薬品開発英語の読む・書く・話す・聞くという4つの能力を向上させるためのセミナーなども製薬企業あるいは医学・薬学系のアカデミアなどで実施している。

(株)アイ・シー・オー

http://www.ico-inc.co.jp/

〒107-0052 東京都港区赤坂2-13-19 多聞堂ビル6F

TEL 03-5549-4070 FAX 03-5549-4075